

## 日本天文学会 早川幸男基金渡航報告書

### IAU Symposium 256: "The Magellanic System: Stars, Gas, and Galaxies"

渡航先—イギリス

期 間—2008年7月28日～8月1日

私はIAUシンポジウム256「The Magellanic System: Stars, Gas, and Galaxies」に参加しました。この研究会はIAUとしては1998年以来10年ぶりの「マゼラン雲」研究会で、5日間にわたってマゼラン雲に関するさまざまな分野の研究成果が報告されました。

私はこの研究会において「The IRSF Magellanic Clouds Point Source Catalogue」というタイトルでポスター発表を行い、私が中心となって作成した「IRSF マゼラン雲近赤外線点源カタログ」を紹介しました。このカタログは最も高い感度と角度分解能でマゼラン雲の主要部分をカバーする近赤外線カタログで、マゼラン雲の星の形成と進化の研究に極めて有用です。世界中の主だったマゼラン雲の研究者が集結するこの研究会において、このカタログを多くの研究者に周知・活用してもらうのが本研究会参加の主目的でした。結果から言うと、この狙いは十分に達成されたと考えています。ポスター発表の時間には、さまざまな分野の研究者の方から質問をいただき、また多くの方からカタログにぜひアクセスしてみたいと言っただくことができました。また、あらかじめ多めに準備しておいたA4サイズのミニポスターとカタログ論文も、3日目までにすべて売り切れてしまいました。このように、多くの研究者にカタログを周知するという狙いは十分に達成できました。今後、さまざまな分野でこのカタログが広く利用されると期待しています。

また私は「ポスターセッション」において、自分のポスターを口頭で紹介する機会を得ました。この機会は研究会で発表された全77枚のポスターのうち、主催者側が注目した11枚のポス

ターだけに与えられたものです。このことは私のカタログが主催者側にも認められたことを示しており、とてもうれしいことでした。

ところで、研究会全体の感想を述べますと、まず発表された研究の分野が非常に多岐にわたっていることが印象的でした。星形成・星の進化・銀河相互作用・物質進化・高エネルギー現象など、これほど多くの分野の研究が行われている系外銀河はマゼラン雲ぐらいでしょう。また研究会では、さまざまな波長域において実行されたマゼラン雲サーベイの結果と、現在計画されている大規模サーベイが紹介されました。その中でも特に、Spitzer 宇宙望遠鏡によるマゼラン雲サーベイは多くの発表で言及されており、その関心の高さが印象的でした。このように、マゼラン雲の研究が順調に進んでいることを感じると同時に、マゼラン雲が極めてユニークで興味深い天体であることを再認識させられました。

なお、この研究会の行われたイギリスの Keele 大学は、マンチェスターから南へ車で1時間ほどの所にあります。豊かな緑と歴史を感じさせる建物が印象的な、非常に過ごしやすい場所でした。また、一般の方が気軽に大学内の施設（パブまである！）を利用するなど、大学と地域がごく自然にふれあいながらこの大学の素晴らしい雰囲気を作り出していると感じました。

今回の研究会への参加は、自分のカタログを広く宣伝できた点、マゼラン雲に関する最新の研究動向を知ることができた点で、たいへん有意義でした。今後はこの経験を活かし、さらに研究を進めていきたいと思います。最後になりましたが、今回いただいた早川基金よりの援助は、私がこの研究会に参加するにあたって大きな助けとなりました。早川基金の運営に携わる皆様、そして選考委員の方々に厚く御礼申し上げます。 加藤大輔（東京大学）